

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター

The Japan Center For Michigan Universities

No. 47
2008 秋

Director's Report

Paul B Reagan

Director of The Japan Center for Michigan Universities

During the Summer 2008, JCMU was home to the largest number of students ever participating in the Summer Intensive Japanese language program and the Environment Studies in Japan program. Students from all areas of Michigan as well as many other states and universities ranging from high school gifted programs to graduate programs participated in and contributed to making this year's summer intensive course, again, a great success. In addition to their studies and projects, the students traveled to various parts of Japan-Tokyo, Hiroshima, Okinawa and of course Kyoto, Nara, and Osaka. Several students joined forces with the MSU Freshman seminar students in Shigaraki and the studios of several renown artists and studied briefly under Pottery and Tea Masters Mr. Tamura and Mister Okuda. Several students also participated in a special meeting with the famous Kyogen artist Master Matsumoto and even practiced and mastered some of the fundamentals of Kyogen performance.

A major highlight of the summer was the participation of JCMU students in the 150th Anniversary celebration of the Signing of the Treaty of Amity and Commerce between the United States and Japan on 29 July. Our students played an incredibly important role in welcoming the dignitaries from the United States Embassy, the governments of Shiga Prefecture and Hikone, the citizens of Hikone and their Imperial Majesties Princess Takamado and Princess Tsuguko and the direct descendant of Commodore Mathew Perry, Dr. Devaney. The ceremonies took place upon the cruise ship Bianca, in memory of the original ceremonies aboard the Powhattan 150 years ago. After introductions and speeches, all set out on a cruise of Lake Biwa while enjoying lunch.

We look forward to a new Fall semester and there is much planned for students, faculty and researchers. Our exchange programs with Shiga University and The University of Shiga Prefecture will be all the more enriched this year with special programs, lectures and other activities.

ポール B レーガン

ミシガン州立大学連合日本センター所長

この夏にはこれまで以上に多くの学生がJCMUの日本語集中プログラムや環境学講座を受講しました。

高校特進コース生から大学院生まで、ミシガン州はもちろん、他の州からも、多彩な学生が受講し、今年の夏学期も大成功でした。

勉強や行事に加えて、学生たちは日本の様々なところを旅しました。東京、広島、そして、京都、奈良、大阪。

ミシガン州立大学の新生セミナーに混じって、信楽の高名な芸術家の工房を

訪れ、短い時間ではありましたが、作陶家の田村さんや同じく茶人でもある奥田さんの下で勉強したのもいきました。また、著名な狂言師の松本先生に特別にお会いする機会を得て、狂言の基本動作のいくつかを練習し、体得した学生もいました。

この夏のハイライトは、7月29日に日米修好通商条約締結150周年記念式典にJCMUの学生が参加したことでした。こちらの学生は、アメリカ大使館、滋賀県庁、彦根市役所、彦根市民、高円宮妃久子様、高円宮承子様、そしてマシュー・ペリー提督の直系の子孫であるデバニー博士を歓迎するのにとても重要な役目を果たしました。式典は、150年前のポウハッタン号上での儀式を再現して、クルーズ船ピアスカの船上で行われました。ひととおりの紹介と挨拶が終わったあと、昼食を楽しみながら琵琶湖クルーズに出ました。

私たちは新しい秋学期が始まるのを楽しみにしています。学生や教員や研究員のため、準備万端です。滋賀大学とや滋賀県立大学との交換プログラムは、今年は特別なプログラムや講義や活動があって、従来にまして充実したものになります。



～英語プログラム～

JCMU には、日本語を勉強しているアメリカ人留学生ばかりでなく、英語プログラムで英語を勉強している仲間もまた大勢います。その中から、今回は、英語プログラム修了後アメリカに留学する 2 人の受講生の方からのメッセージとインタビューをご紹介します。

JCMUでの出会いをきっかけに

勝部康晴さん

私は、今年の秋から University of Missouri Columbia の大学院に留学することになりました。ミシガン日本センターには、昨年1月から7月までお世話になり、その約半年間の生活は、私の人生を大きく変える貴重な時間となりました。

ミシガン日本センターには素晴らしい寮施設が完備してあります。私を含めた多くの日本人学生が、アメリカ各州から来日している留学生と同じ寮、部屋に住み、共同生活をしながら語学を勉強しました。お互いの国の伝統料理を作ったり、勉強を教えあったりして、休日は一緒に史跡を巡ったり、買い物をしたり、本当に楽しい毎日でした。ミシガン日本センターの素晴らしさは一言では表せないのですが、一番のすばらしさは出会いだと思います。国籍もバックグラウンドも違う人々と生活し、語り合い、文化の違いや価値観の違いを知り、それを理解しあって友情を深めることができる。それは、世界に友達を持つことであり、視野を世界に向ける機会となります。事実、私自身、留学を志したのは、ミシガン日本センターでの多くの出会いがきっかけです。みなさんにとっても、ルームメイトをはじめ、夢を持つたくさんの仲間との出会いは、自らの人生を変えるきっかけとなるはずですよ。



英語の授業も大変充実していました。講師はふたりで、どちらもネイティブです。授業では、読む、聞く、話す、書くという英語の総合力を高めるため、曜日によって異なる授業が用意されています。授業で扱う内容はどれも日常の場面を反映しているものが多く、実際のアメリカ人との寮生活ではもちろん、旅行時など海外に行かれたときにも大変役立つと思います。また、授業には様々なゲームが用意されていたり、海外留学生が参加したりすることもあるので、他の受講生とコミュニケーションをとりながら、学んできたことを楽しく復習できます。

学長をはじめ、スタッフの方々が親切でいきいきされているのも、楽しく毎日を過ごせる理由です。授業のことや寮生活などに真剣に、そして親身に対応して下さいますし、毎日笑顔で挨拶をして下さるので、明るい気持ちで過ごせます。私は大学院への出願に推薦状が必要だったのですが、学長のレーガン先生は、お忙しいにも関わらず、学校をすでに卒業した私に快く推薦状を書いて下さいました。

ミシガン日本センターの生活を通して、私には貴重な財産ができました。それは、たくさんの仲間たちです。彼らとの友情は今でも変わりなく、私の留学実現を励ましてくれましたし、今でも助け続けてくれています。いつでも遊びに行ける、遊びにきてくれる仲間が海外にいるなんて、なんだかワクワクしてきませんか。ぜひみなさんも、ミシガン日本センターで素晴らしい出会い、そして夢を見つけてください！

私のチャレンジ ～転職そして留学へ～

辻 宏美さん

Q：英語講座を受講するようになったきっかけは？

彦根在住だったので、以前からJCMUの存在は知っていましたが、なかなか始めるきっかけはありませんでした。科学系の大学を卒業したあと、陶芸を自分のライフワークにしたいと思い、アルバイトをしながら空いた時間は陶芸工房に通う生活を数年続けていました。ただ、このような生活は、将来に対する不安が大きく、20代半ばをすぎた頃からいろいろな焦りが出てきました。

そんな時、何か一生役に立つスキルを身につけたいと思い始めました。せっかくやるのであれば、楽しいほうがいい、何か自分の好きなことがいいな…と思い、学生時代から興味があった英語を勉強してみることにしました。

Q：英語講座を受講しはじめて、どのような変化がありましたか？

まず、英語の勉強方法がわかりました。JCMUで受講を始める前は、TOEICの参考書や問題集を買って、自分で勉強しようと試みたことが何度もありました。ですが、いつも途中で挫折していたように思えます。

私と同じように「英語に興味があるけれども、どのように(何を使って)勉強すればいいかわからない」と思っている方も多いと思います。私にとって、はじめの一步としてのこの発見は大きかったと思います。

勉強方法が定まれば、あとはそれに従って、JCMUの宿題や教材の予習・復習を重ねました。復習は、思ったよりもはるかに効果が大きかったように感じます。

Q：英語を使う仕事とは、どのように出会いましたか？

勉強時間が増えるに従って、TOEICのスコアも徐々に上がり始めました。目に見える形で結果を確認することで、少しずつ自信が付き始めました。

自分がこのように能力を伸ばせると思っていなかったのも、びっくりすると同時に「可能性」について考えるようになりました。もしかすると、無理だと思い込んでいること(英語を使う仕事や好きな陶芸)であっても、継続することで可能になるのかもしれない、と思い始めました。

夜間コースを2年ほど受講した頃、思い切って英語を使う仕事に応募してみました。

Q：職場ではどのような場面で英語を使いますか？

英語を使った仕事は、主には海外の技術者が日本で生活してゆくためのサポートでした。急病対応やビザの手配、処遇に関する打ち合わせなど、世界中の関連会社から来日した外国人技術者と接する機会がありました。主な共通言語は英語でした。仕事を始めたばかりの頃は、言いたいことが英語で伝えられず、悔しい思いをすることが多々ありましたが、常に英語と触れ合う環境に身を置くことで、JCMUでの学習が一層効果的であったと思います。

外国人の中には、日本語はほとんどわからないし英語も得意ではない方もありました。そんな場合には、英語で英語をわかりやすく説明することが多いのですが、ボイス先生の話し方や説明の仕方をまねてみることも多かったです。

また、クラスで学んだ表現を実際に使ったりクラスで取り上げられた話題について外国人たちと話すこともありました。



Q：JCMUのクラスについて



素晴らしい先生方や、クラスの仲間との交流は、とても実りのあるものでした。

世代や職場の違う方々と接する機会を持つことができ、互いの意見を交換することができました。他の会社や学校、地域でのことなど、知らなかった分野の話聞くことができ、英語以外の面でも、自分自身の視野を広げるいい機会になったと思います。

また、授業を受ける時間は、頭の中をリフレッシュさせるいい機会にもなっていました。仕事のストレスなども、授業に集中することでいつしか忘れてしまい、授業が終わった時にはさっぱりとした気持ちに切り替わっていました！

Q：最後に一言

「英語を使った仕事を得る」という一つの夢を実現させたあと、次の夢「いつかは海外で暮らしてみたい」をかなえることも、できるのではないか、と思いはじめました。また、私のライフワークである陶芸も同時に学べる方法として、留学を決意しました。秋からはUTSAに編入し、Fine Artsを勉強する予定です。将来どのような道が待っているのか想像が付きませんが、JCMUをきっかけとして道が開けていったことを忘れずに、留学生生活を精一杯楽しみたいです。JCMUでの時間を抜きにして、私のこれからのチャレンジは考えられなかったと思います、先生方やクラスの仲間たち、そして事務所の皆さんどうもありがとうございました、またどこかで会えることを楽しみにしています。

《MSU卒業生公開授業》

JCMUの各教育プログラムは、ミシガン州にある15の州立大学が共同して運営していますが、その事務局はミシガン州立大学 (MSU)にあります。MSUは、全米有数の規模を誇る名門大学です。日本人留学生も大勢いて、世界中で卒業生たちが活躍しています。あの南方熊楠も卒業生の1人です。

さて、彼ら卒業生の組織の1つにMSU関西同窓会があります。6月28日(土)には、MSU関西同窓会の事務局長であり、経営コンサルタントでもある東一夫氏がJCMUで「日本の社会経済と企業の未来」と題した特別授業をしてくださいました。

21世紀という新しい時代のあり方や、その中で利潤追求だけではない経営理念の重要性についての話は大変興味深く、JCMUの学生も聴講に来て頂いた一般市民の皆さんも熱心に耳を傾けておられました。

各界で活躍する卒業生の皆様の支援に深く感謝します。



Snapshots



7月29日に井伊直弼と開国150年祭のオープニングセレモニーがありました。NHK大河ドラマ「篤姫」でも中村梅雀が井伊直弼を好演していました。「ひこにゃん」も大人気で、昨年からの全国的に彦根が注目されています。

ところで、ミシガン大学に世界的に有名な水泳選手がいるのをご存じですか。メリーランド州出身で、身長190cm余り、体重90kg弱、目の色はブラウン。今度のオリンピックでどれだけ活躍しているか。2008年7月現在で世界記録を4つ保持する男。

正解はマイケル・フェルプスです。このニュースレターが出るころには北京オリンピックの結果も出ていますが、さらに今後の活躍が期待されるところです。

JCMU Calendar 2008年 行事予定

9/6	土	公開講座「いご落語会～おふく寄席～」
9/9	火	オープンキャンパス
9/17	水	秋季英語プログラム開講
10/24	金	ハロウィーンパーティー
11/8	土	公開講座「アメリカから見た井伊直弼」
11/29	土	公開講座「アメリカと日本のマイノリティ」
12/13	土	日本語プログラム修了式
1/5	月	英語プログラム(冬季)開講

《冬季英語プログラムご案内》

彦根コース

開講期間 2009年1月5日(月)～3月19日(木)
 場所：ミシガン州立大学連合日本センター
 (彦根市松原町〔彦根プリンスホテル南隣〕)

【英語集中コース】

月～金 10:00～12:00 13:10～15:10

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

※アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

【スキル・テーマ別コース】

週1～2回 10:00～12:00 13:10～15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ライティング」、「アメリカ・オン・ビデオ」「総合英語」等の実力アップを図るためのコースがあります。

【夜間コース】

月・木 週2回 19:00～20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

●申込締切 2008年12月12日(金)

大津コース

開講期間：2009年1月7日(水)～3月18日(水)

※大津夜間コースは1/7休講で3/25まで

場所：ピアザ淡海 (大津市におの浜一丁目〔びわ湖ホール東隣〕)

【大津マルチスキル】14:00～16:00 毎週水曜日

【大津夜間コース】19:00～20:30 毎週水曜日

●申込締切：2008年12月12日(金)

ホストファミリー募集

当センターでは、アメリカ・ミシガン州を始め全米から来日している留学生のホストファミリーを募集しています。一人でも多くの留学生がホームステイを体験できるようご協力いただければ幸いです。

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002 滋賀県彦根市松原町網代口1435-86

TEL 0749-26-3400 FAX 0749-24-9356

http://www.jcmu.net

■編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所